

今を輝く人に聞く

20

# まちひと ZOOM!!

皆さんは、海外で日本酒の人気の高まっていることを知っていますか。今年には本県でIWC（インターナショナルワインチャレンジ）日本酒部門が開催されました。日本酒の美味しさを英語ではどう表現するのでしょうか。「やや甘口は semi-sweet、辛口は dry。華のような香りは floral です」。こう解説するのは、小嶋総本店で働くアレクサンダー・スミス（愛称：アレックス）さんです。

アレックスさんは現在、製造部仕込課で日本酒造りの工程を一から学んでいます。「昨日は泊まり込みの仕事でした。麹室では、毛布を掛けたり取ったりして、温度や湿度を小まめに調節しています」と答えるアレックスさん。その表情はとても明るく、昨晚の疲れを感じさせません。

アレックスさんに、米沢の日本酒の魅力を知りました。「蔵元と米農家の関係がとても近く、地元産というこだわりがあるところです。何より日本酒が地域の中で大切にされ、誇りを持って酒造りに取り組んでいる点に惹かれました」。

外国人旅行者向けに、酒造資料館を案内するこ

酒蔵で日本酒造りを一から学ぶ

アレクサンダー・スミス さん（松が岬2丁目）

[Profile] アメリカ・シアトル出身。大学で日本語を学び、ALTとして3年半前に来日。知人の紹介を経て、5月に小嶋総本店に入社した。

つなぐ架け橋へ  
日本酒で米沢と世界を



ともあるというアレックスさんは語ります。「米沢の日本酒をお土産に、アメリカの友人を訪ねたことがあります。その時、彼らがその美味しさに驚いてくれました。アメリカには日本酒のバーもありますが、米沢の酒の味はまだ知られていません。日本酒を通して、米沢と世界との Bridge（架け橋）になりたいです」。アレックスさんの夢を乗せて、初めて仕込みに関わった新酒がいよいよ出荷を迎えます。

今年「上杉メモリアルフェスタ」として、「米沢戊辰150年（色部長門）」に始まり、9月には「直江兼続公没400回忌記念事業」、「なせばなる秋まつり」、「ようざん桜の杜づくり事業」、林修氏による「上杉鷹山公記念講演会」、「帝人100周年記念米沢イベント」など、一連の事業を行ってきました。多くの方に参加、ご来場いただき、誠にありがとうございました。また、運営に携わっていただきました各大学の学生や関係

おしょうしな  
よねざわ



今月のはなし  
上杉メモリアルフェスタを通じて

団体の皆様、多くの市民の皆様のご協力とご支援に感謝申し上げます。

さて、一連の事業を通じて、上杉氏時代から受け継がれてきた「歴史文化遺産」、鷹山公の「米沢織」を始めとする殖産興業の偉大さを改めて実感しました。私たちは、イベントの成功をただ喜ぶだけでなく、「郷土への誇りと愛着心を高め、その想いを未来へと引き継ぐ」とした「上杉メモリアルフェスタ」のテーマに基づき、米沢づくりを進めていかなければなりません。少子高齢化などの厳しい環境にある現在、米沢を支えてきた先人たちの想いをもう一度かみしめ、米沢の未来をつないでいく必要があります。そこに「上杉メモリアルフェスタ」の意義もあると思っております。遺産ともいえる米沢そのもののブランド化を、「挑戦と創造のあかし米沢品質」のスローガンのもと進めてまいります。

米沢市長 中川 勝